

第4章 秋田県内25市町村の分析

この章では、県内25市町村について、RESASの産業構造マップ、地域経済循環マップ等を用いて、地域経済の特徴や強み・弱み、産業振興の方向性等を分析する。

1 秋田市

(1) 産業の構造から見た秋田市の産業

付加価値額及び従業者数では、「医療業」及び「社会保険・社会福祉・介護事業」が大きなウェイトを占める。

付加価値額では、医療福祉分野に続いて「飲食料品小売業」などの小売業が大きな割合を占め、「総合工事業」などの建設業も大きい。従業者数では、医療福祉分野に続いて、「飲食店」などのサービス業、「飲食料品小売業」などの小売業が多い。

【図表76】付加価値額



従業者数

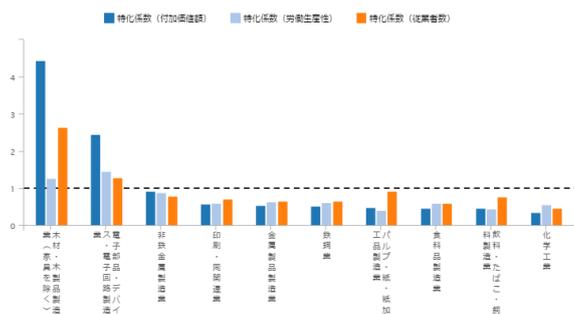


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 特化係数から見た秋田市の産業

製造業の付加価値額等の特化係数では、「木材・木製品製造業（家具を除く）」と「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が1を超えている。

【図表77】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）

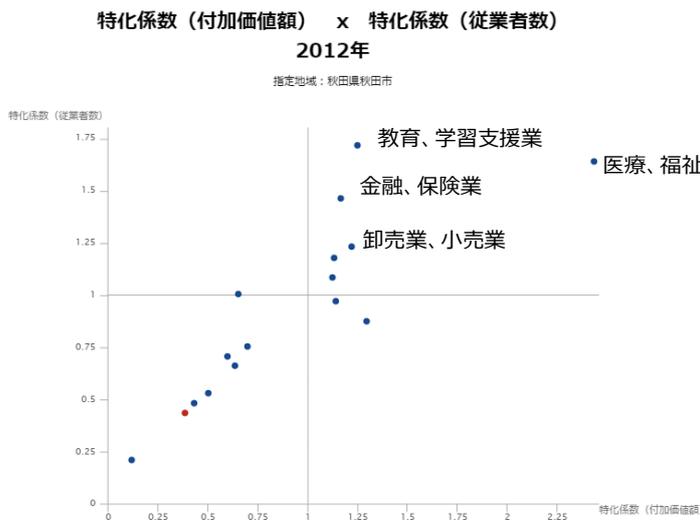


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／特化係数（付加価値額順）で見る」

(3) 特化係数（付加価値額×従業者数）から見た秋田市の産業

付加価値額と従業者数の特化係数をクロスさせた産業分布を見ると、最も付加価値額の特化係数が大きいのが「医療・福祉」である。また、「教育、学習支援業」、「金融、保険業」、「卸売業、小売業」など第3次産業が付加価値額、従業者数の両方で1を超えており、販売、サービス業が大きなウェイトを占める本市産業の特徴を表している。

【図表 7 8】 特化係数（付加価値額・従業者数）

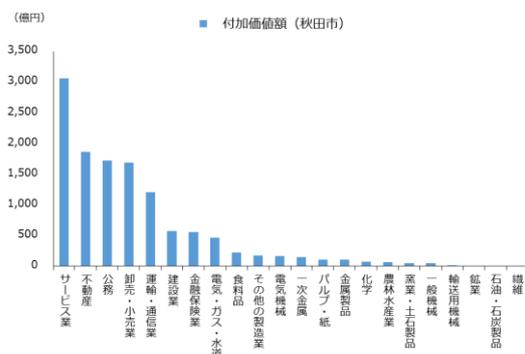


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／散布図で分析／産業の分布を見る」

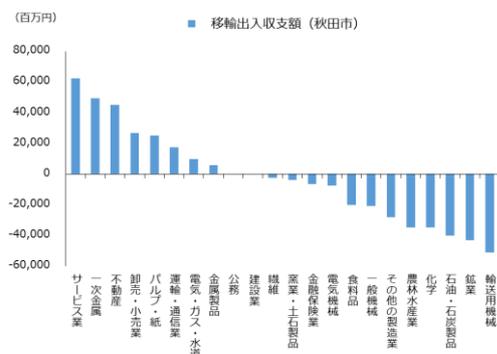
(4) 地域経済循環マップから見た秋田市の産業

付加価値額では、「サービス業」、「卸売・小売業」など第3次産業が上位を占め、「建設業」や「食料品」などの第2次産業も大きい。域外収支では、「サービス業」が最もプラスが大きく、「一次金属」、「パルプ・紙」など製造業のプラスが大きい。

【図表 7 9】 付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支」のデータを用いて作成

(5) RESAS から見た秋田市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額や従業者数の面で、医療福祉などのサービス業のウェイトが大きく、卸売・小売業も大きな部分を占める。サービス業は、移輸出入収支額の面でもプラスが一番大きく、外貨を稼ぐ産業となっていることが特徴である。移輸出入収支額では「一次金属」、「パルプ・紙」などの製造業もプラスが大きいほか、「運輸・通信業」、「電気・ガス・水道」もプラスとなっている。

また、特化係数の面では、製造業の「木材・木製品製造業（家具を除く）」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が付加価値額、労働生産性、従業者数の全てで1を超えており本市の産業の強みとなっている。

一方で、サービス業の強みの基礎となっている人口や事業所数が減少に転じており、マーケットの縮小というリスクを抱えていることが弱みである。

(6) 産業振興の方向性と想定されるK P I

県内市町村に関して、サービス業は、付加価値額では大きいものの移輸出入収支額ではマイナスとなっている自治体が多いのに対して、本市はサービス業が移輸出入収支額で大きくプラスとなっている点が特徴である。人口、事業所が集中している点を活かし、対個人、対事業所サービス業の振興を図る方向性が有効と考えられる。製造業では、特化係数の面から本市の強みである「木材・木製品製造業（家具を除く）」や「電子部品・デバイス・電子回路製造業」の関連産業の振興を図る方向性が考えられる。

想定されるK P Iとして、当該産業の付加価値額、移輸出入収支額が考えられる。

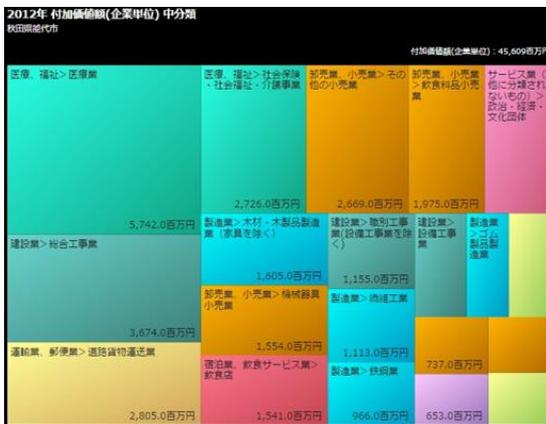
2 能代市

(1) 産業の構造から見た能代市の産業

付加価値額では、「医療業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」が大きく、合計すると全体の2割近くを占める。また、従業者数でも、「医療業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」が最も多くの雇用を生み出している。

付加価値額では、医療福祉分野に続いて「総合工事業」、「道路貨物運送業」、「その他の小売業」などが大きい。また、「木材・木製品製造業（家具を除く）」が大きいことが特徴である。従業者数では、医療福祉分野に続いて小売業、サービス業が多く、「総合工事業」や「木材・木製品製造業（家具を除く）」も多い。

【図表 8 0】付加価値額



従業者数

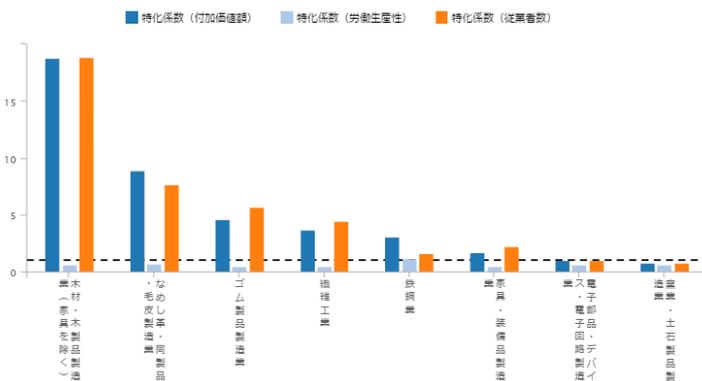


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 特化係数から見た能代市の産業

特化係数では、「木材・木製品製造業（家具を除く）」の付加価値額と従業者数の特化係数が非常に大きい。一方、労働生産性が1を下回る点が課題である。

【図表 8 1】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）

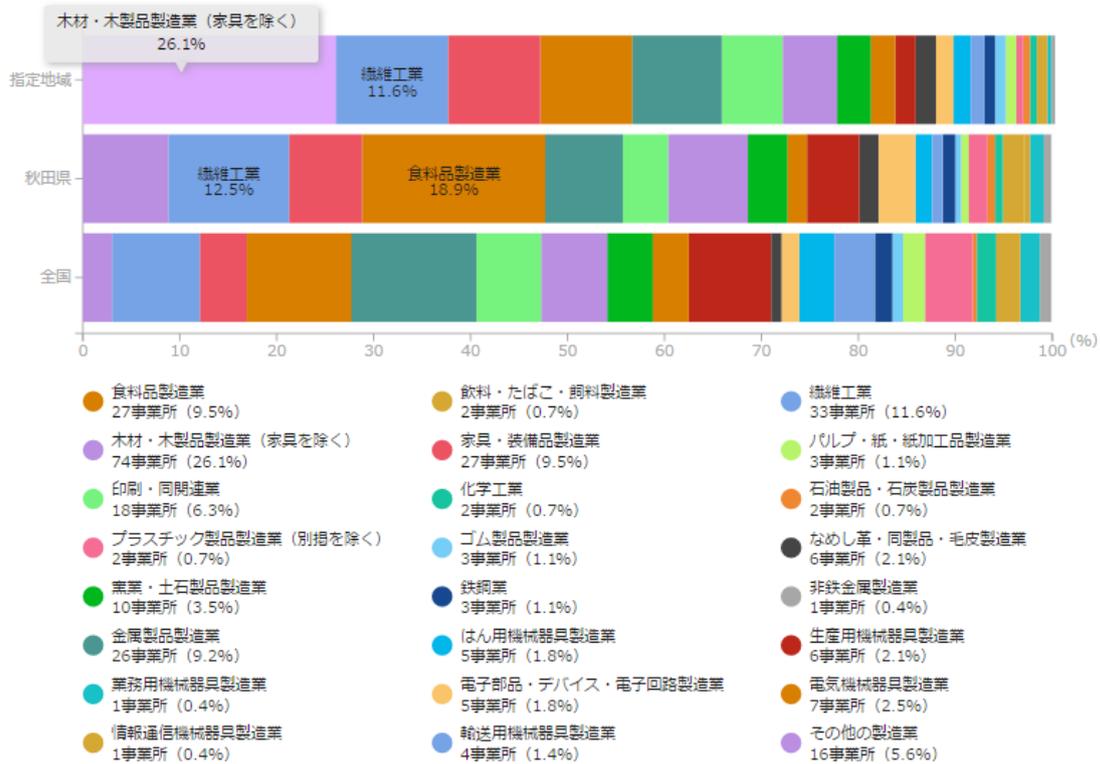


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／特化係数（付加価値額順）で見る」

(3) 事業所数から見た能代市の木材・木製品製造業

製造業の産業分類別の事業所数割合を見ると、本市は「木材・木製品製造業（家具を除く）」が26.1%と4分の1強を占め、秋田県（8.8%）、全国（3.0%）を大きく上回る。一方で、事業所数の多さが労働生産性の低さに通じている。

【図表 8 2】 製造業の事業所数の産業分類別割合



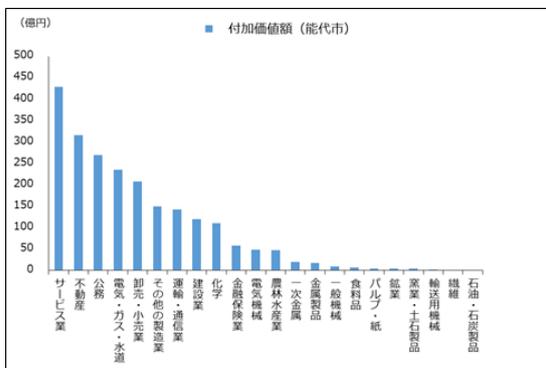
「産業構造マップ／全産業の構造／横棒グラフで割合を見る／割合順で見る」

(4) 地域経済循環マップから見た能代市の産業

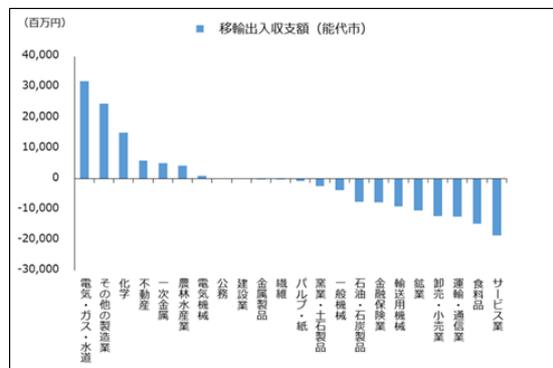
「サービス業」は、付加価値額に関しては産業中で最も大きいものの、移輸出入収支額ではマイナスとなっている。

「電気・ガス・水道」は、付加価値額で4番目に大きく、域外収支でプラスが最大である。能代火力発電所があり域外からの収入を稼いでいる。「その他製造業」は付加価値額で6番目に大きく、域外収支では2番目に大きい。これは本市が「木都」と言われるように木材産業の集積があることを反映している。移輸出入収支で「化学」のプラスが大きいのは、医薬品の生産拠点が立地している影響と考えられる。

【図表 8 3】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(5) RESAS から見た能代市の産業の特徴、強み・弱み

県北の中核都市として一定規模の人口を有し、付加価値額や従業者数の面で、医療福祉分野などサービス業のウェイトが大きい。本市の特徴的な点として、「電気・ガス・水道」や「化学」が外貨を稼ぐ産業となっていること、木材産業の集積により「木材・木製品製造業（家具を除く）」が付加価値額等の特化係数が高いことが挙げられる。

一方で、主力産業である「木材・木製品製造業（家具を除く）」の特化係数を見ると、労働生産性が1を下回り低いことが弱みである。

(6) 産業振興の方向性と想定されるKPI

本市の強みを活かす方向性から考えると、木材高度加工研究所の研究を活用する木材産業の振興や相乗効果のある医薬品等の化学産業の誘致の重要性が高い。想定されるKPIとしては、当該産業に関する付加価値額、域外収支などが挙げられる。

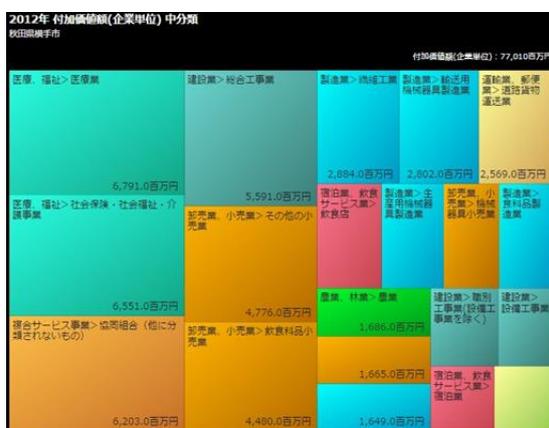
3 横手市

(1) 産業の構造から見た横手市の産業

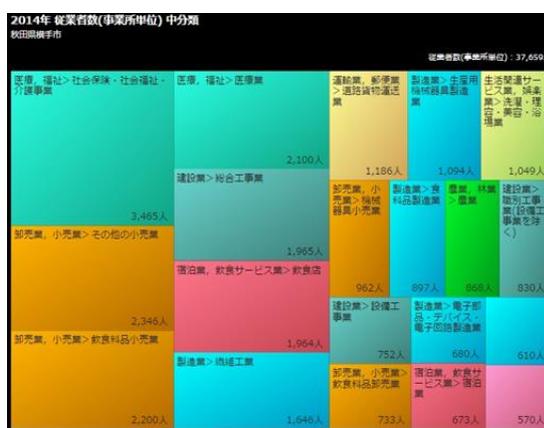
「医療業」と「社会保険・社会福祉・介護事業」は、付加価値額及び従業者数の両方で上位にあり、本市の産業における医療・福祉分野のウェイトが大きい。

付加価値額では、医療・福祉分野に続いて「協同組合（他に分類されないもの）」、「総合工事業」や「その他の小売業」、「飲食料品小売業」が大きい。また、「繊維工業」、「輸送用機械器具製造業」など製造業も大きな付加価値を生み出している。従業者数でも、これらの小売業、建設業、製造業関係の業種が上位を占める。

【図表 8 4】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た横手市の産業

農業の販売金額を見ると、稲作の割合が 50%を下回り、養豚、果樹類、露地野菜など稲作以外の農産物の割合が大きいことが特徴である。

【図表 8 5】農産物部門別販売金額



「産業構造マップ／農業／農業の構造」

(5) RESAS から見た横手市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額や従業者数の面では、サービス業や小売業のウェイトが大きい。また、付加価値額の面では、1次、2次、3次産業に渡って各産業のバランスが良いことが特徴である。その中で、「輸送用機械」をはじめ、「電気機械」、「一般機械」など機械関係の製造業や「農林水産業」は外貨を稼ぐ産業であり、本市の強みである。

一方、強みである「農林水産業」と関連付けられる「食料品製造業」は域外収支がマイナスであり、振興の余地が大きいと考えられる。また、「輸送用機械」は付加価値額の大きさと比較して事業所数が少なく、産業としての広がり不足していると捉えられ、本市の弱みといえる。

(6) 産業振興の方向性と想定されるK P I

本市の強みを活かす方向性から考えると、成長性の高い「輸送用機械」の振興や「電気機械」、「一般機械」などの製造業を振興することが有効である。特に、本市産業の強みである「輸送用機械」に関しては、事業所数が少ないことに表れているように産業としての広がり不足しており、関連企業・工場の誘致や域内での育成により産業としての広がり、厚みを強化していくことが課題である。

また、農業において稲作以外で販売金額の大きい養豚や果樹類と製造業を結びつけた食肉加工品や果物のジュースなどの食料品製造業の振興が重要である。

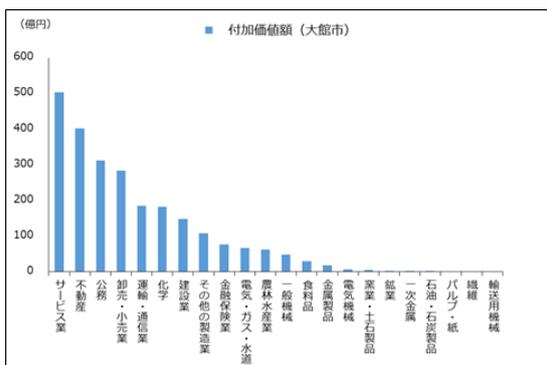
想定されるK P Iとしては、当該産業に関する付加価値額、従業者数、移輸出入収支額が考えられる。

(3) 地域経済循環マップから見た大館市の産業

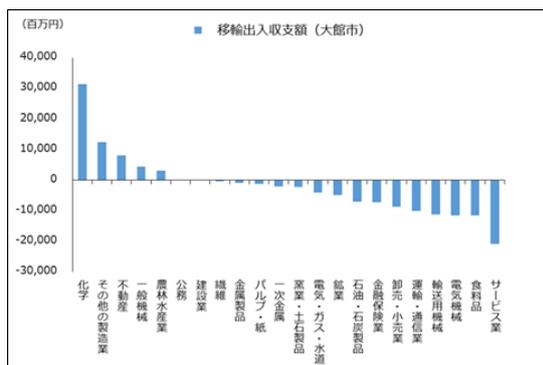
「サービス業」は、付加価値額に関しては産業中で最も大きいものの、移輸出入収支額では大きなマイナスとなっている。

「化学」、「その他の製造業」（木材・木製品製造業）、「一般機械」などの製造業が付加価値額、移輸出入収支額の両面で大きい。また、「農林水産業」も移輸出入収支額がプラスであり、外貨を稼ぐ産業となっている。

【図表 90】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た大館市の産業の特徴、強み・弱み

県北の中核都市として一定規模の人口を有し、付加価値額や従業者数の面では、サービス業や小売業のウェイトが大きい。また、本市には医療機器メーカーの生産拠点が立地しており、付加価値額、従業者数や移輸出入収支額の面で、「化学」をはじめとする製造業が大きなウェイトを占めることが特徴である。

農業では特産品・比内地鶏を有するという特色を持ちながら、「食料品製造業」の付加価値額は大きくなく、域外収支はマイナスとなっている点が弱みといえる。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

移輸出入収支額でプラスの大きな産業を伸ばす方向から考えると、「化学」に代表される製造業を振興することが重要である。具体的には、「化学」関連の生産拠点の誘致や、「その他の製造業」（木材・木製品製造業）、「一般機械」の振興という方向性が考えられる。また、比内地鶏という特産品を持つ本市の強みを活かすためには、比内地鶏のブランド強化や食料品製造業との連携による比内地鶏の加工品開発が有効である。

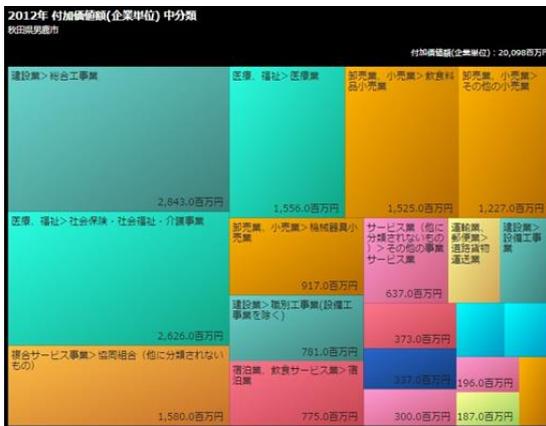
想定される K P I としては、当該産業の付加価値額、従業者数、移輸出入収支額が考えられる。

5 男鹿市

(1) 産業の構造から見た男鹿市の産業

「総合工事業」が付加価値額で最も大きく、従業者数では2番目に大きい。
 また、付加価値額では「協同組合（他に分類されないもの）」が3番目に大きい。
 上記以外の産業では、付加価値額、従業者数の両面で、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」などの医療福祉分野、「飲食料品小売業」などの小売業が大きい。従業者数の面では、「飲食店」、「宿泊業」も多く、対個人サービス業が多くの雇用を生み出している。

【図表 9 1】付加価値額



従業者数

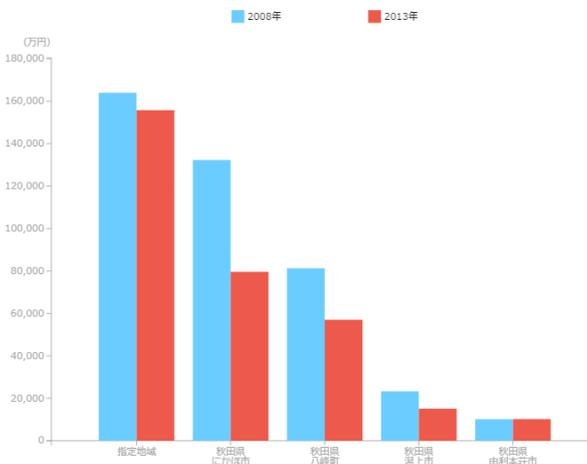


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 海面漁獲物等販売金額から見た男鹿市の産業

県内市町村の海面漁獲物販売金額（総額）を比較すると、男鹿市がにかほ市、八峰町を上回り最も大きく、本市の強みとなっている。

【図表 9 2】海面漁獲物等販売金額

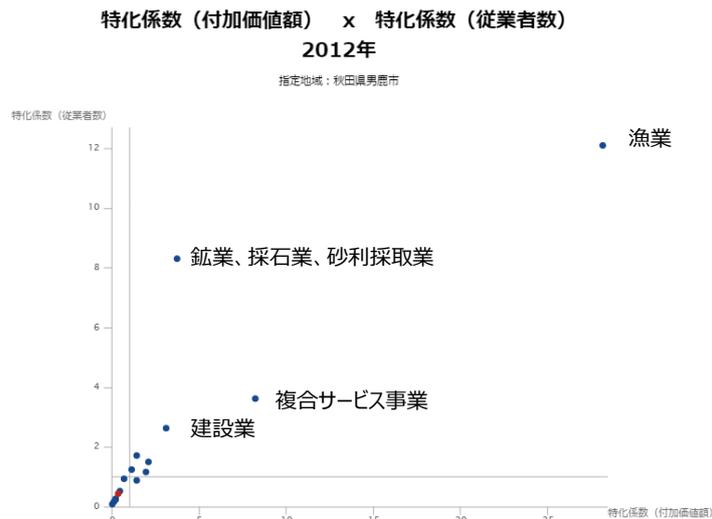


「産業構造マップ／水産業／海面漁獲物等販売金額（総額）／グラフを表示」

(3) 特化係数から見た男鹿市の産業

「漁業」が付加価値額と従業者数の両方で最大となっていることが特徴であり、本市産業における「漁業」のウェイトの高さを示している。また、「鉱業、採石業、砂利採取業」（採石業）が従業者数の特化係数が大きいことも特徴の一つである。

【図表 9 3】特化係数（付加価値額・従業者数）

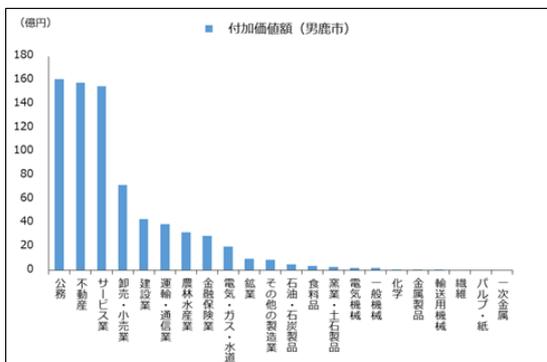


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／散布図で分析／産業の分布を見る」

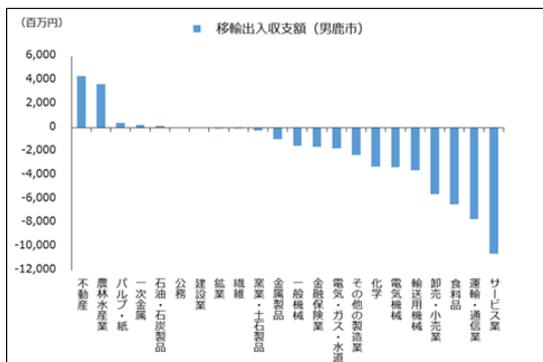
(4) 地域経済循環マップから見た男鹿市の産業

付加価値額に関しては「公務」、「不動産」、「サービス業」が大きい。移輸出入収支額では「不動産」と「農林水産業」のプラスが大きい。「農林水産業」のプラスが大きいことに関しては、海面漁獲物販売金額に関して県内で本市が最も大きい点が寄与していると考えられる。

【図表 9 4】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(5) RESAS から見た男鹿市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数の両面で、「総合工事業」や医療福祉分野などのサービス業や小売業が大きなウェイトを占める。

付加価値額、従業者数で「宿泊業」が上位にあるのは、観光地を有する本市の強みと考えられる。一方で、サービス業などウェイトの大きな産業が移輸出入収支額でプラスとなっていないことが本市の産業面の弱みである。

「水産業」は、付加価値額と従業者数の特化係数が本市産業中で最大であることが特徴である。ただし、水産物を活用する可能性を有する「食料品製造業」に関しては、付加価値額が大きくなり域外収支がマイナスであることから、振興の余地が大きいと考えられる。

(6) 産業振興の方向性と想定されるK P I

「宿泊業」などの対個人サービス業が従業者数で上位にあることや温泉郷などを有することから考えると、観光と結び付けた小売業、サービス業の振興が有効と考えられる。また、県内最大の海面漁獲物販売金額を活かすためには、水産業と食料品製造業が連携することによる加工食品開発の振興が有効と考えられる。

想定されるK P Iとしては、上記の産業に係る付加価値額や移輸出入収支額が考えられる。

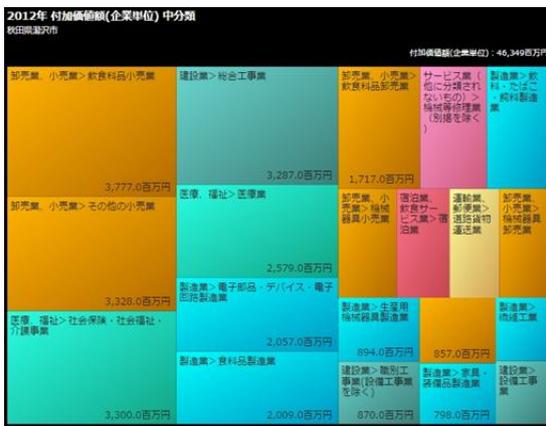
6 湯沢市

(1) 産業の構造から見た湯沢市の産業

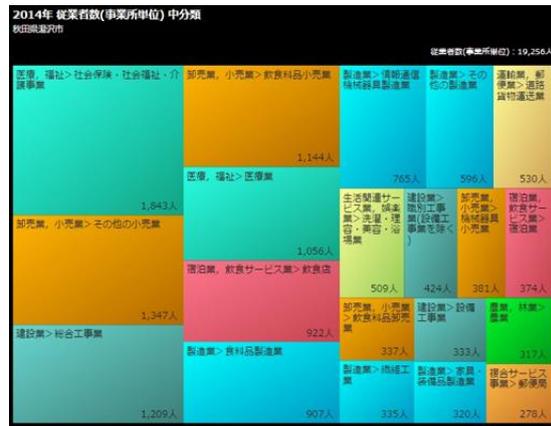
付加価値額では、小売業の「飲食料品小売業」、「その他の小売業」が最も大きく、医療福祉分野の「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」が3、5番目に大きい。「総合工事業」や「電子部品・デバイス・電子回路製造業」も比較的大きい。

従業者数でも、上記の医療福祉、小売業、建設業が大きな雇用を確保しているほか、「食料品製造業」などの製造業も比較的多くの雇用を生み出している。

【図表95】付加価値額



従業者数

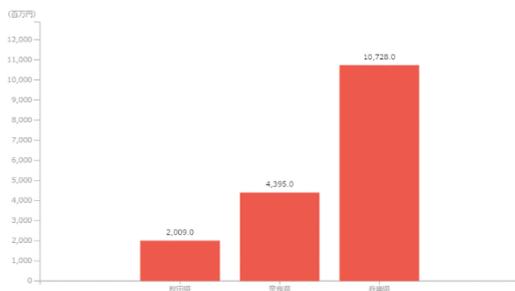


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

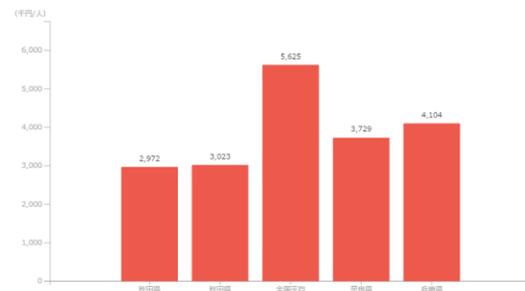
(2) 食料品製造業の付加価値額から見た湯沢市の産業

従業者数で「食料品製造業」が比較的多いのは特産品・稲庭うどんを有する強みと考えられる。麺類で特産品を有する奈良県桜井市（三輪素麺）、兵庫県たつの市（揖保乃糸）と比較すると、食料品製造業の付加価値額は湯沢市を大きく上回っており、労働生産性も上回っている。稲庭うどんを活用した食料品製造業を振興する余地は大きいと考えられる。

【図表96】食料品製造業・付加価値額



労働生産性

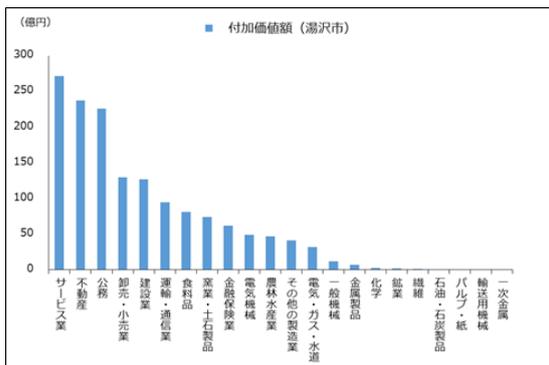


「産業構造マップ／付加価値額（企業単位）・労働生産性（企業単位）／製造業・食料品製造業」

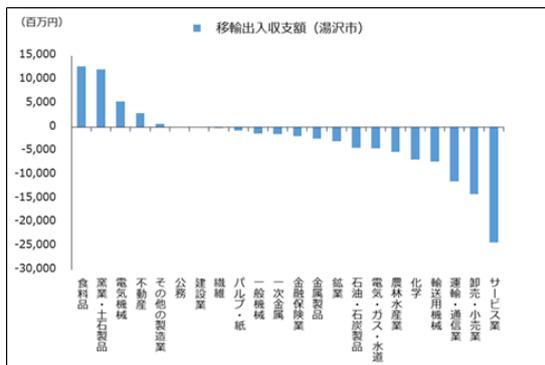
(3) 地域経済循環マップから見た湯沢市の産業

付加価値額に関しては「サービス業」が最も大きい。続いて、「不動産」、「公務」、「卸売・小売業」など幅広い産業が並ぶ。移輸出入収支額では「食料品」、「窯業・土石製品」、「電気機械」といった製造業がプラスとなっている。「窯業・土石製品」の移輸出入収支額が大きなプラスとなっているのは、窯業製品を用いた精密機器部品の生産拠点が立地する影響と考えられる。

【図表 9 7】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た湯沢市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数では、医療福祉、小売業が大きな部分を占める。「食料品」、「窯業・土石製品」、「電気機械」等の製造業は、付加価値額、従業者数で大きく、外貨を稼ぐ産業となっていることが特徴である。稲庭うどんの産地であることや電子部品、精密機器部品関連の生産拠点が立地していることが強みとなっている。

一方、麺類で特産品を有する他地域との比較では、「食料品製造業」の付加価値額や労働生産性が下回っていることが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

本市の強みである食料品製造業を活かすためには「稲庭うどん」のブランド強化を図ることが重要である。麺類の有名な特産品を持つ県外の自治体との比較からも食料品製造業の付加価値額増強や労働生産性の向上を図る余地は大きいと判断される。また、電子部品や精密機器関連の生産拠点が立地している強みを活かすためには、関連する製造業の振興及び誘致等が有効と考えられる。

想定される K P I としては、それら製造業に係る付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

7 鹿角市

(1) 産業の構造から見た鹿角市の産業

付加価値額では、「医療業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」の合計が全体の2割強を占め、3番目に大きい「総合工事業」などの建設業、「その他の小売業」などの小売業も大きく、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が6番目となっている。

従業者数では、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」で全体の約2割となっており、建設業や小売業も多くの従業者数を占めている。「宿泊業」、「飲食業」が多いのは、温泉郷などの観光地を有する影響が考えられる。

【図表98】付加価値額



従業者数

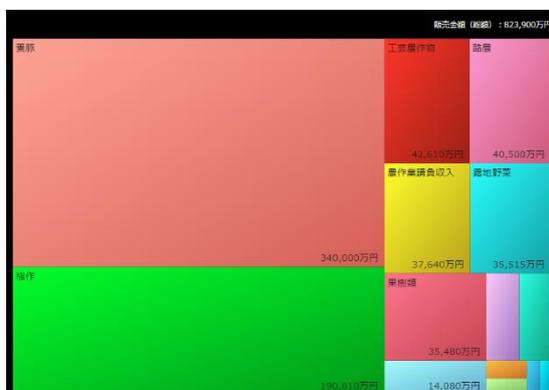


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造・製造業の構造から見た鹿角市の産業

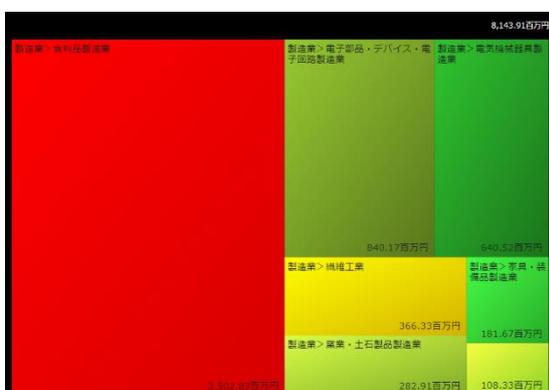
農業の販売金額を見ると、最も多い「養豚」が全体の4割強を占めるのが特徴である。「果樹類」が7番目に多い。製造業の付加価値額では、「食品品製造業」が全体の約3割を占め、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が次に大きい。

【図表99】販売金額



「産業構造マップ／農業／農業の構造」

付加価値額



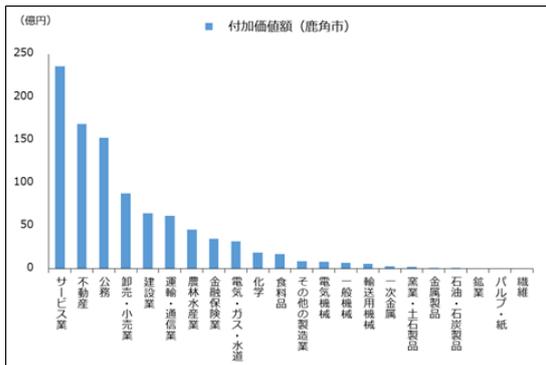
「産業構造マップ／製造業／製造業の構造／付加価値額」

(3) 地域経済循環マップから見た鹿角市の産業

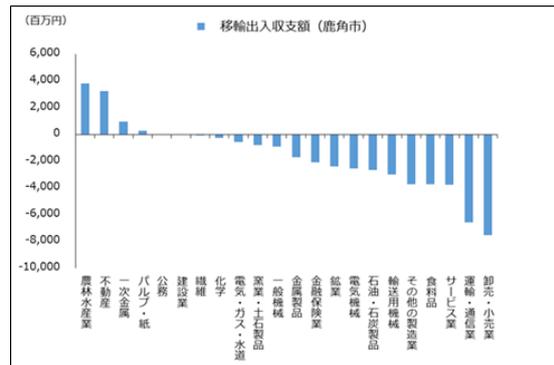
付加価値額に関しては「サービス業」が最も大きい。続いて、「不動産」、「公務」、「卸売・小売業」などが上位となっている。

一方、移輸出入収支額では農林水産業が最大のプラスであることが特徴である。

【図表100】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た鹿角市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数では、医療福祉、小売業、建設業が大きな部分を占めるが、移輸出入収支額がプラスとなっている産業が農林水産業であることが特徴である。

「農林水産業」は、米に加え、鹿角りんご、北限の桃などの果実、かづの牛、八幡平ポークなど畜産品の産地となっており、外貨を稼いでいる。製造業の付加価値額では、「食料品製造業」が最大となっており、養豚をはじめとする農産品の加工が大きな付加価値を作り出している。

また、製造業では、「食料品製造業」とともに「電子部品・デバイス・電子回路製造業」も大きな付加価値を作り出していることが本市の強みの一つである。

一方で、移輸出入収支額がプラスである産業が少ないことが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

本市の強みである農林水産業を活かすためには、農林水産業と食料品製造業との連携をさらに強化し、地域内で付加価値を高める方向性が有効である。また、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」など電気関係の製造業の強みを活かし、技術力・開発力の向上を図る方向性も考えられる。

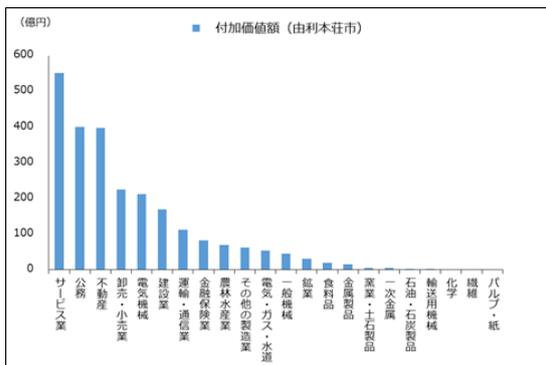
想定されるKPIとしては、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「食料品製造業」など製造業の付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

(3) 地域経済循環マップから見た由利本荘市の産業

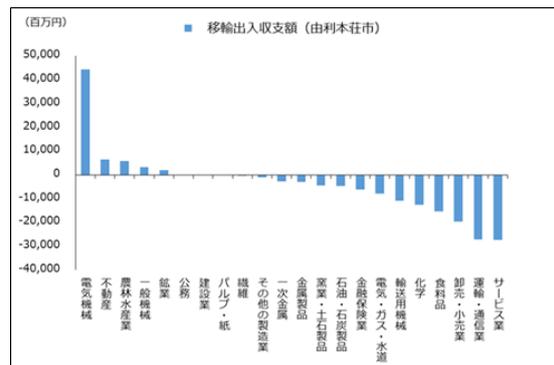
付加価値額に関しては「サービス業」が最も大きく、「公務」、「不動産」に続いて「卸売・小売業」、「電気機械」、「建設業」が上位にある。

移輸出入収支額では、「電気機械」が突出して大きくプラスの大部分を占める。「農林水産業」、「一般機械」などもプラスとなっている。また、「鉱業」（天然ガス）がプラスとなっていることも本市の特徴である。

【図表 103】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た由利本荘市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数、移輸出入収支額に表れているように、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「電気機械器具製造業」が本市の主要産業となっており、域外から外貨を稼いでいる。電子部品関連の生産拠点が集積し、秋田県全体の製造業を牽引している。一方で、電子部品の市況に地域経済が左右されやすいという弱みにもつながっている。

また、製造業に関しては電気関係のみならず「一般機械」、「木材・木製品製造業（家具を除く）」、「繊維工業」など幅広い分野で付加価値を生み出している。

(5) 産業振興の方向性と想定されるKPI

最大の特徴である電子部品関連の強みを活かすためには、域内に立地する県立大学との連携によりさらに技術力、開発力を強化する方向が考えられる。また、電子部品に次ぐ産業を育成するために秋田県として力を入れている航空機関連産業の強化を図る方向性が考えられる。

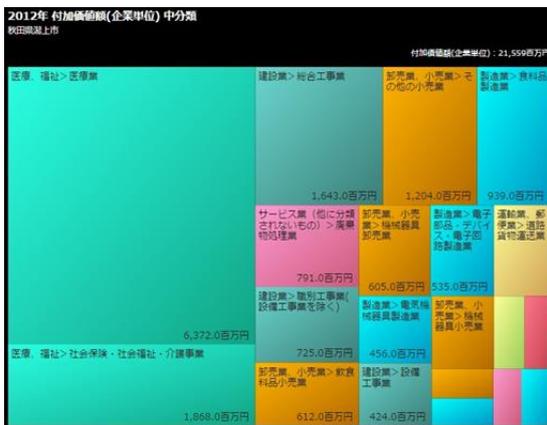
想定されるKPIとしては、電子部品及び輸送機関連産業の付加価値額、従業者数、移輸出入収支額が挙げられる。

9 潟上市

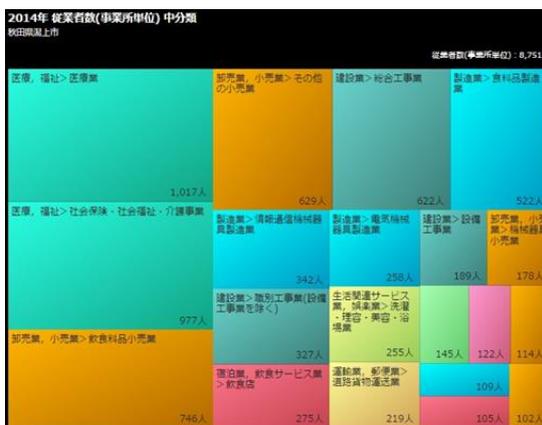
(1) 産業の構造から見た潟上市の産業

付加価値額では、「医療業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」の医療福祉分野が1、2番目で、合計すると全体の4割近くを占めることが特徴である。続いて、「総合工事業」、「その他の小売業」が大きい。「食料品製造業」は5番目に大きい。従業員数においても、「医療業」、「社会保険・社会福祉・介護事業」が1、2番目であり、続いて小売業、建設業が多い。

【図表104】付加価値額



従業員数

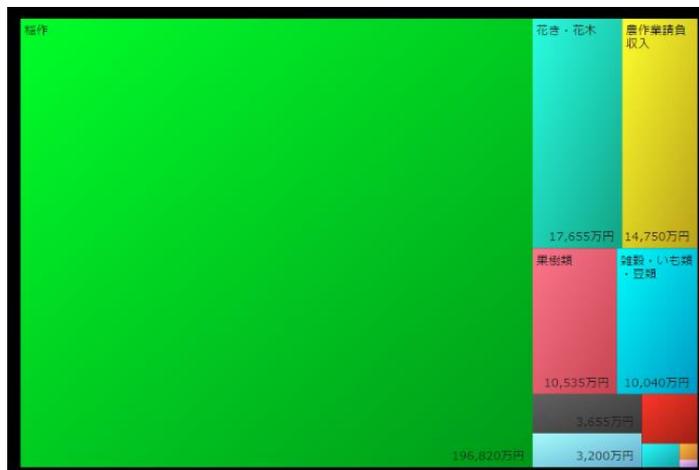


「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業員数（事業所単位）／中分類で見る」

(2) 農業の構造から見た潟上市の産業

本市の農業の構造を見ると、特徴的な点は「稲作」が販売金額全体の約76%を占めることである。「花き・花木」、「農作業請負収入」が2、3番目に大きく、続いて「果樹類」、「雑穀・いも類・豆類」が大きい。

【図表105】販売金額

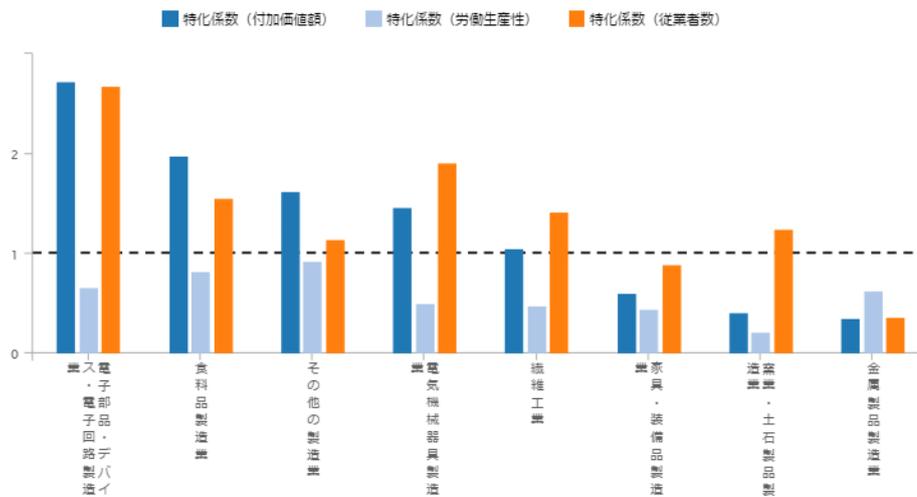


「産業構造マップ／農業／農業の構造」

(3) 特化係数から見た潟上市の産業

製造業の付加価値額等の特化係数では、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「電気機械器具製造業」など電気関係が付加価値額で1を超えている。また「食品製造業」は付加価値額で2に近く、「その他の製造業」の付加価値額も1を超えている。「繊維工業」は従業者数で1を上回り雇用面で貢献している。

【図表106】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）



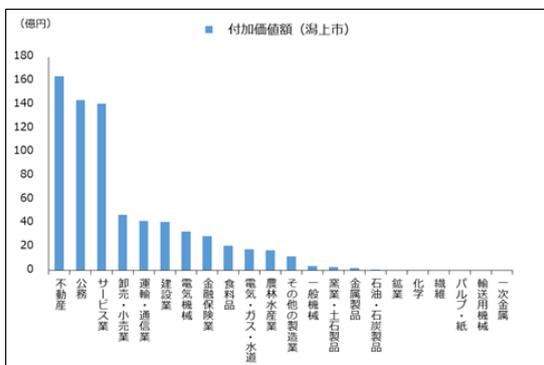
「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／特化係数（付加価値額順）で見る」

(4) 地域経済循環マップから見た潟上市の産業

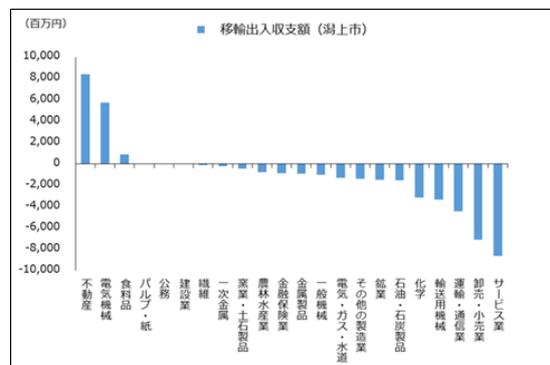
付加価値額に関しては「不動産」、「公務」、「サービス業」が大きく、続いて「卸売・小売業」、「運輸・通信業」、「建設業」が上位にある。

一方、移輸出入収支額では、「電気機械」のプラスが大きく、「食品」もプラスで外貨を稼ぐ産業となっている。

【図表107】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(5) RESAS から見た潟上市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数の面では、医療福祉分野、小売業、建設業が大きなウェイトを占める。一方で、移輸出入収支額の面では、「電気機械」のプラスが大きい。本市に通信機器・電子機器の生産拠点が立地していることから「電気機械」が域外からの外貨を稼ぐ産業となっていることが強みである。また、「食料品製造業」も移輸出入収支額がプラスであり、外貨を稼いでいる。

反面、「電気機械」や「食料品」を除くと域外から外貨を稼ぐ産業が少ないことが弱みと考えられる。

(6) 産業振興の方向性と想定されるKPI

通信機器等の生産拠点が立地する強みを活かすためには、関連産業の誘致による相乗効果を図る方向が考えられる。

また、食料品も移輸出入収支額がプラスとなっている点に着目すると、特産品開発などによる食料品製造業の振興も有効と考えられる。農業の構造では「稲作」が約4分の3を占めるが、「果樹類」が4番目に大きい。梨、ぶどうなどの加工による商品開発が想定される。

想定されるKPIとしては、電気機械関連、食料品に関する付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

10 大仙市

(1) 産業の構造から見た大仙市の産業

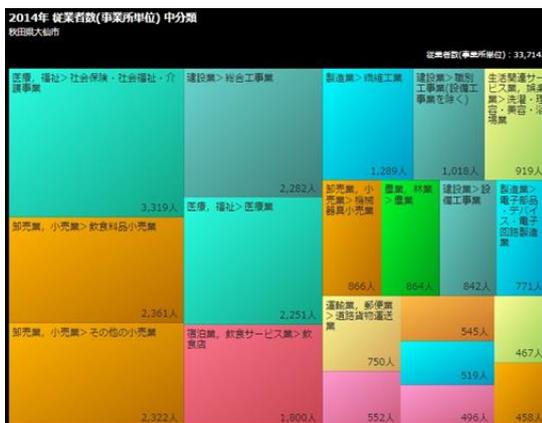
付加価値額では、「総合工事業」が最も大きいことが特徴である。続いて、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」など医療福祉、「その他の小売業」、「その他の卸売業」など卸・小売業が大きな部分を占める。

従業者数では、「社会保険・社会福祉・介護事業」など医療福祉、「飲食料品小売業」など小売業、「総合工事業」など建設業で多くの雇用を確保している。

【図表108】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

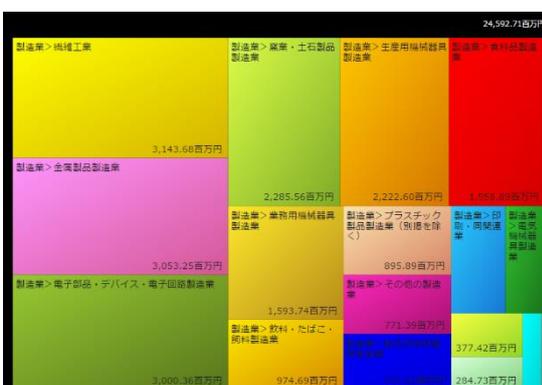
(2) 農業の構造・製造業の構造から見た大仙市の産業

農業の販売金額を見ると、「稲作」が全体の7割弱を占め、次いで「養豚」、「露地野菜」等が大きい。製造業の付加価値額では、「繊維工業」、「金属製品製造業」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」がそれぞれ全体の約12%で並ぶ。続いて、「窯業・土石製品製造業」、「生産用機械器具製造業」、「食料品製造業」など幅広い分野が付加価値を生み出している。

【図表109】販売金額



付加価値額



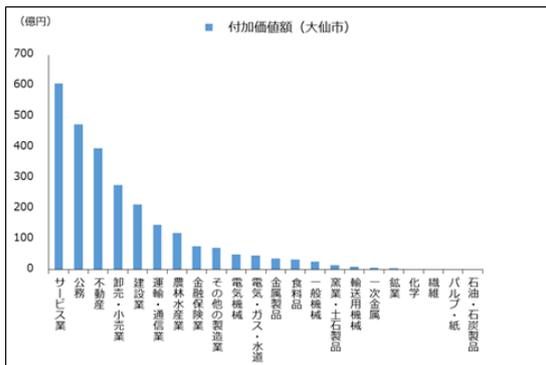
「産業構造マップ／農業／農業の構造」 「産業構造マップ／製造業／製造業の構造／付加価値額」

(3) 地域経済循環マップから見た大仙市の産業

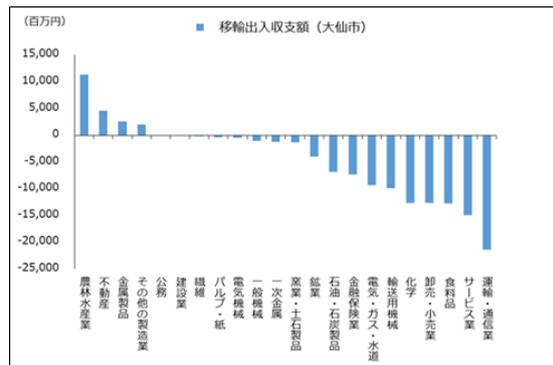
付加価値額に関しては「サービス業」が最も大きく、続いて「公務」、「不動産」、「卸売・小売業」、「建設業」などが上位である。

移輸出入収支額に関しては、「農林水産業」が最大のプラスとなっている。また、「金属製品」、「その他の製造業」などの製造業もプラスである。

【図表 1 1 0】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た大仙市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数の面では、建設業、医療福祉、小売業が大きなウェイトを占める。一方で、移輸出入収支額の面では、「農林水産業」のプラスが大きい。本市は県南の穀倉地帯にあり、米を中心に、えだまめ、アスパラガスなどの野菜等の産地となっており、「農林水産業」が外貨を稼ぐ産業となっている。

製造業は、移輸出入収支額では、「金属製品」が外貨を稼いでおり、それ以外の「繊維工業」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」なども同程度の付加価値額であるなど、幅広い分野が発達している点が本市の強みとなっている。

一方、「農林水産業」は外貨を稼ぐ産業となっているものの、農産物を活用した「食料品製造業」の移輸出入収支額はマイナスとなっている点が弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

外貨を稼ぐ産業である「農林水産業」の強みを活かすためには、農林水産業と食料品製造業の連携による高付加価値化という方向性が考えられる。本市の農業は稲作のシェアが大きいことから、他の農産物の振興も並行して行う必要がある。また、「金属製品」等の製造業における移輸出入収支額のプラスを伸ばすためには、関連産業の誘致や技術力、開発力の強化という方向性が考えられる。

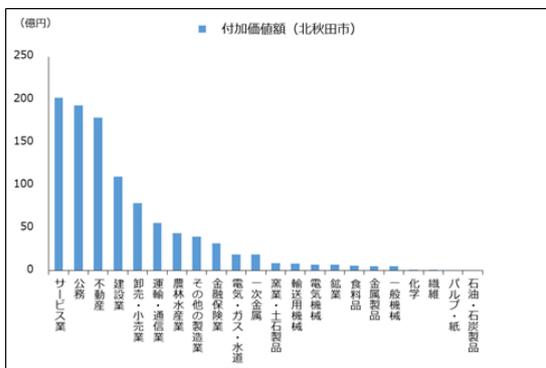
想定される K P I としては、「食料品製造業」、「繊維工業」、「金属製品製造業」などの製造業の付加価値額、移輸出入収支額が挙げられる。

(3) 地域経済循環マップから見た北秋田市の産業

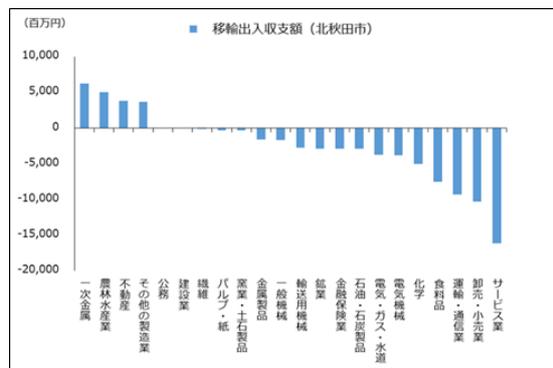
付加価値額に関しては「サービス業」が最も大きく、続いて「公務」、「不動産」、「建設業」、「卸売・小売業」などが上位である。

移輸出入収支額では、「一次金属」、「その他の製造業」（木材・木製品）などの製造業と「農林水産業」などがプラスの産業となっている。「一次金属」、「その他の製造業」は鋳物（ガラス瓶金型、ねじ）や木材・木製品などの出荷により外貨を稼いでいる。

【図表 1 1 3】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(4) RESAS から見た北秋田市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数の面では、医療福祉、小売業、建設業のウェイトが大きい。一方で、移輸出入収支額の面では、「一次金属」、「その他の製造業」（木材・木製品）などの製造業及び「農林水産業」がプラスとなっている。製造業に関しては鋳物など、農林水産業に関しては米に加え、きゅうり、トマトなどの野菜の出荷により域外から外貨を稼いでいる。

ただし、上記産業を除くと外貨を稼ぐ産業が少ないことが弱みである。

(5) 産業振興の方向性と想定される K P I

外貨を稼ぐ産業である「農林水産業」の強みを活かすためには、きゅうり、トマトなど園芸作物のブランド化や農林水産業と食料品製造業の連携による高付加価値化という方向性が考えられる。食料品製造業は、製造業の付加価値額で産業中分類中の 7 番目であり、振興の余地があると考えられる。

外貨を稼いでいる製造業の振興のためには、「一次金属」や「その他の製造業」（木材・木製品）の技術力強化による競争力向上という方向性が考えられる。

想定される K P I としては、農林水産業や製造業に関する付加価値額や移輸出入収支額が挙げられる。

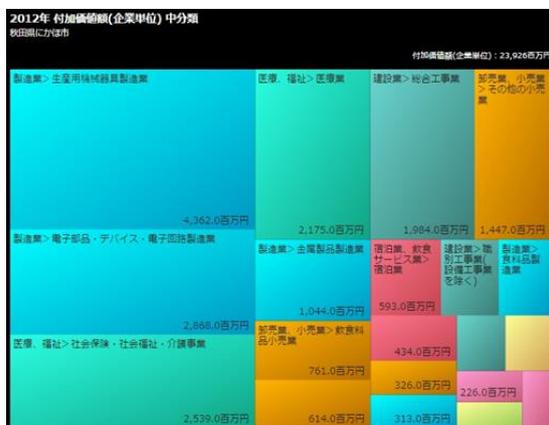
12 にかほ市

(1) 産業の構造から見たにかほ市の産業

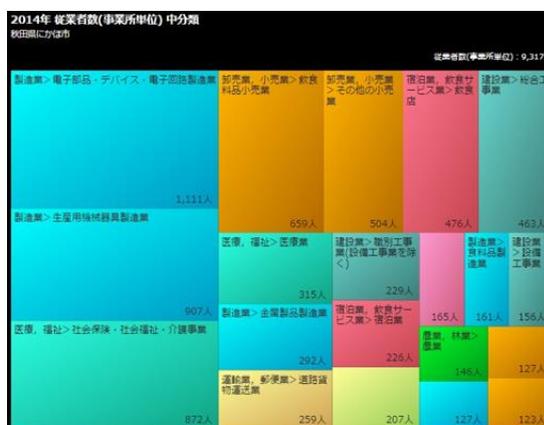
付加価値額では、製造業の「生産用機械器具製造業」、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「金属製品製造業」が大きく、3業種の合計で全体の3分の1強を占めることが大きな特徴である。続いて、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「医療業」など医療福祉分野、「総合工事業」など建設業が大きい。

従業者数でも、製造業の「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「生産用機械器具製造業」が1、2番目に多くの雇用を生み出している。続いて、医療福祉分野や「飲食料品小売業」、「その他の小売業」などの小売業の従業者が多い。

【図表 1 1 4】付加価値額



従業者数



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

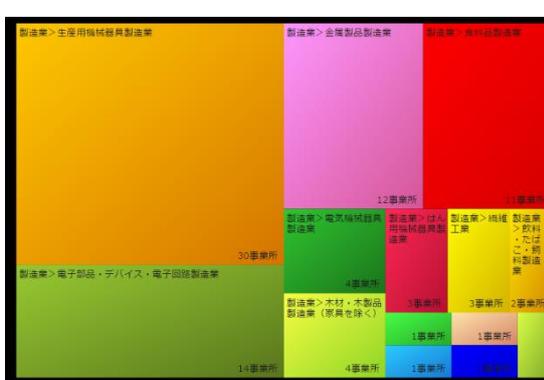
(2) 製造業の構造から見たにかほ市の産業

付加価値額では「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が全体の85%を占め圧倒的に大きく、「生産用機械器具製造業」が7%で次に大きい。「電子部品・デバイス・電子回路製造業」は、事業所数では14にとどまり、大規模な事業所が多い。

【図表 1 1 5】付加価値額



事業所数

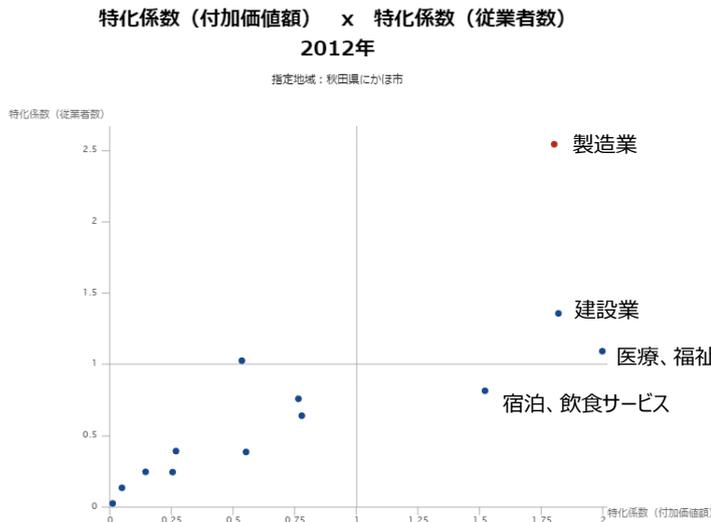


「産業構造マップ／製造業／製造業の構造／付加価値額・事業所数」

(3) 特化係数から見たにかほ市の産業

付加価値額と従業者数の特化係数をクロスさせた産業分布を見ると、「製造業」が付加価値額、従業者数の両方で特化係数が大きく、電子部品・デバイス・電子回路製造業を主力とする産業構造の特徴を示している。

【図表 1 1 6】特化係数（付加価値額・従業者数）

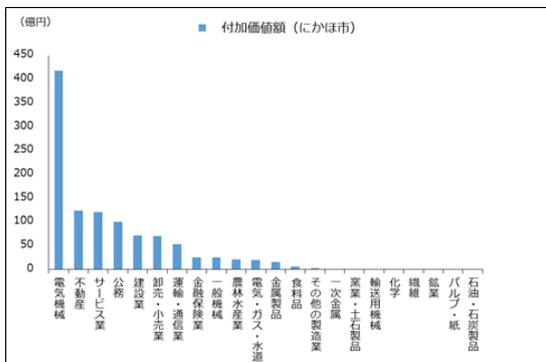


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／グラフ分析／散布図で分析／産業の分布を見る」

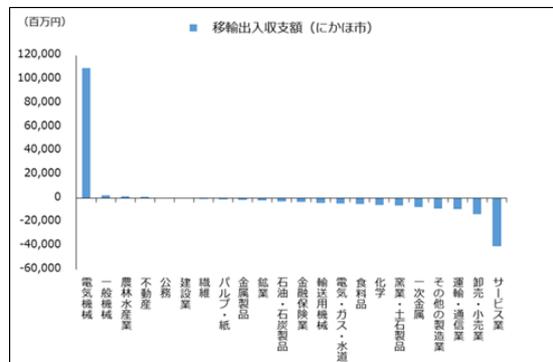
(4) 地域経済循環マップから見たにかほ市の産業

付加価値額と移輸出入収支額の両方に関して、「電機機械」が突出して大きいことが特徴である。移輸出入収支額では「一般機械」もプラスであり、外貨を稼ぐ産業となっている。

【図表 1 1 7】付加価値額



移輸出入収支



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

(5) RESAS から見たにかほ市の産業の特徴、強み・弱み

付加価値額、従業者数や移輸出入収支額の面で、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」など電気機械関係の製造業が大きなウェイトを占め、外貨を稼ぐ産業となっている。本市には大手電子部品メーカーの生産拠点が立地しており、さらに、取引先となる地元企業も多いことから、本県を代表する電子部品製造業の集積地となっていることが最大の特徴であり強みである。

製造業では、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」に続いて付加価値額で「生産用機械器具製造業」が大きく、また、「一般機械」は移輸出入収支額プラスとなっている。これは電子部品等を生産するための機械の製造分野が発達したという要因があると考えられ、本市産業の強みである。

反面、電子部品の世界的な景況に地域経済が左右されやすいという弱みもある。

(6) 産業振興の方向性と想定されるKPI

最大の特徴である電子部品関連の製造業の強みを活かすためには、関連産業の誘致とともに、地元企業の技術力、開発力を高め部品製造から完成品メーカーへの転換を進める方向性が考えられる。

また、電子部品の市況に地域経済が左右されやすいという点から考えると、電子部品に続く第2の柱となる産業の育成も重要である。移輸出入収支額では「一般機械」もプラスであることから、「一般機械」がその候補産業として考えられる。

想定されるKPIとしては、電子部品関連や一般機械など製造業に関する付加価値額、従業者数、移輸出入収支額が挙げられる。